
2017年度 事業報告書

より良い 2018 年度を創りだすため



特定非営利活動法人
今治 NPO サポートセンター

目 次

I	2016 年度総括	1
II	2017 年度事業報告	2
1.	今治市民活動センター管理運営事業	2
2.	その他の事業	19
3.	会議に関する事項について	20
III	2017 年度決算報告	21
IV	2018 年度事業及び予算	26
1.	2018 年度事業計画書	26
2.	2018 年度事業予算書	32

II 2017 年度事業報告

1. 今治市民活動センター管理運営事業

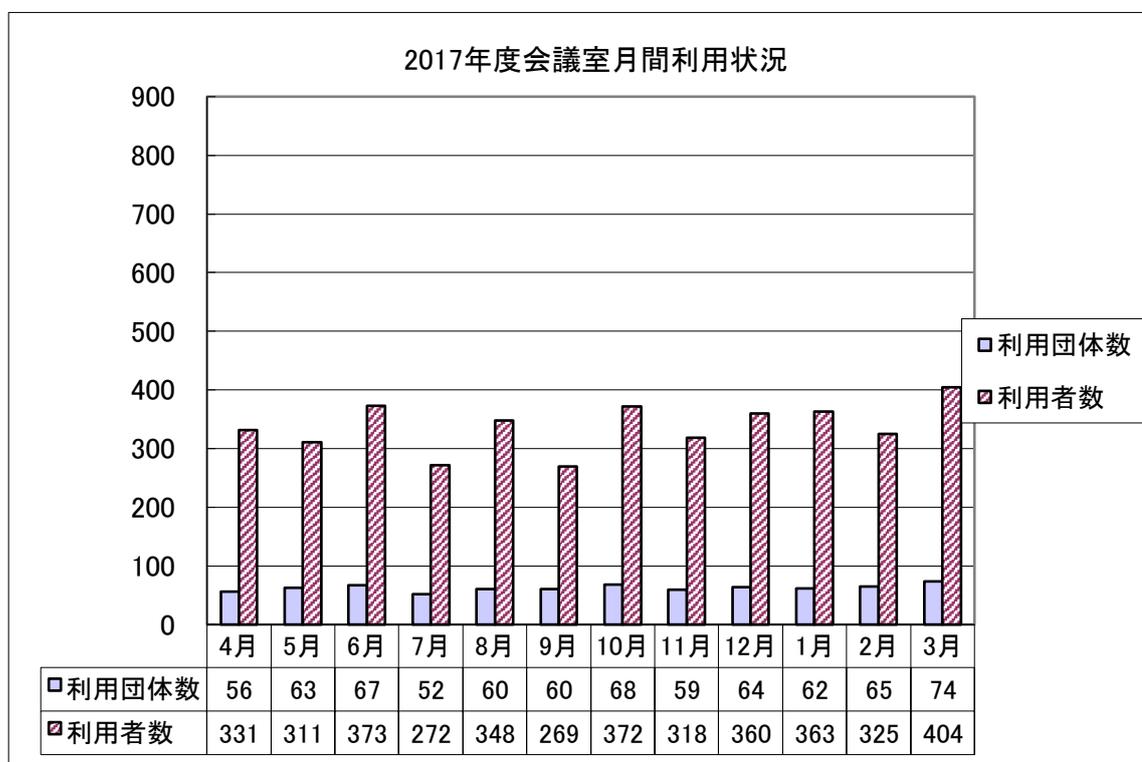
(1) 施設の運営業務（使用調整、受付・案内業務など）

内容	<p>通年事業（月から土曜日 10 時～19 時開館） （事前申込みがあれば、日曜日、祝日 10 時～18 時開館。平日 22 時まで開館）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸会議室の無料提供（登録団体に限る） ・機材の貸出 ・情報交流スペースでのインターネット回線の利用や書籍の貸出 ・貸事務所の効率的な運営
対象	センター登録者・市民ボランティア・一般
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフは使用者と積極的にコミュニケーションをはかり、意見の収集に努めた。 ・事務所入館団体募集を広報、機関紙等で行い、入館を呼びかけた。
結果 課題	<p>会議室の利用者は 750 団体 4,046 人となった（H27 年度；833 団体 4,598 人）。使用人数、使用内容により大会議室、中会議室の使用を使い分けている団体が多く、会議室の機能を十分に理解し、ご使用いただいている。交流スペースで使うことができる Wi-Fi 機能、作業スペースや作業資材の貸し出しなどは好評で、多くの方にご使用いただいた。会議の合間や待ち合わせなどの時間を利用し、書籍を読んだり、新聞記事に目を通したりする来館者も見られた。湯茶の準備、無料で使える備品、予約システムの簡便性など、引き続き、使用者の目線に立った運営を行いたい。</p> <p>今年度の登録は新たに 3 団体あり、使用にあたっての目的等を十分に伺い、市民活動の実践や発展を目指したものであるか判断した。会議室の使用については、各団体により、頻度は様々である。施設の存在の認知度は年を追うごとに高まっている。今後より一層、地域や団体、個人ボランティアへの使用を促したい。貸し事務室は、3 月末現在で 9 団体が入館しており、内 1 団体が 2 部屋を使用している状況である。新たに使用を希望する団体もおり、団体の事務室を持つメリット等を伝えたいと感じている。</p> <p>センターの使用について、より正確な使用数値を把握するため、会議室及び事務室の利用者数、使用者の性別・年齢・居住地・来訪手段などを把握する書類のご提出をいただいている。今年度は使用人数が多い事務室使用団体の退室等、定期的に使用している団体の使用頻度の減少等が影響し、利用者数が減少した。利便性の高い施設であることを既存の登録団体に改めて説明したり、新規の登録団体を増やしたりする等の取り組みを行い、使用増加を目指したい。</p> <p>■使用者の声■</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの情報が集まってきているので助かる。 ・高齢者の方にも利用しやすい。 ・貸事務所機能は独自がある。 ・アクセスがいい。 ・台所があり、便利である。 ・低コストで借りられる。 ・年に 2 回、使用者が集まる座談会があり、意見交換ができています。 ・団体の希望を取り入れた運営をしていただいている。（障がいを持つ方の職場体験） ・利用団体が運営に協力する企画があればよい。 ・団体相互の交流を促進する会をしては。 ・市民、団体の居場所になるような（例えば「サロン」）取り組みはどうか。

2017年度センター利用状況詳細

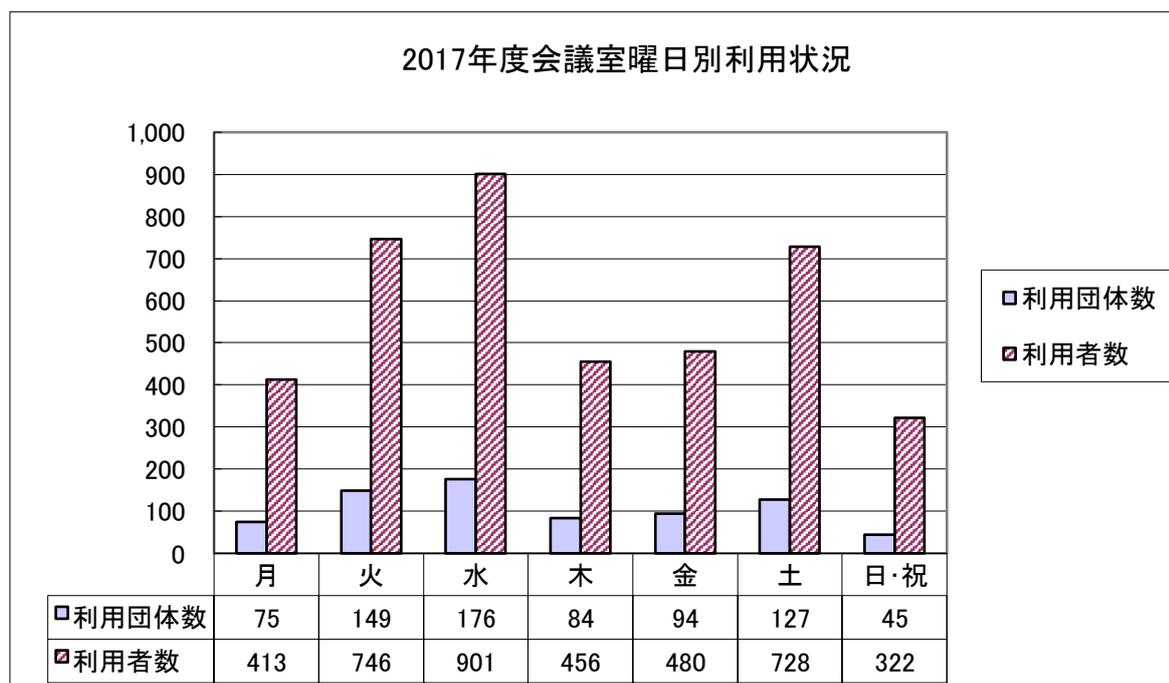
【センター利用状況(月間)】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用団体数	56	63	67	52	60	60	68	59	64	62	65	74	750
利用者数	331	311	373	272	348	269	372	318	360	363	325	404	4,046



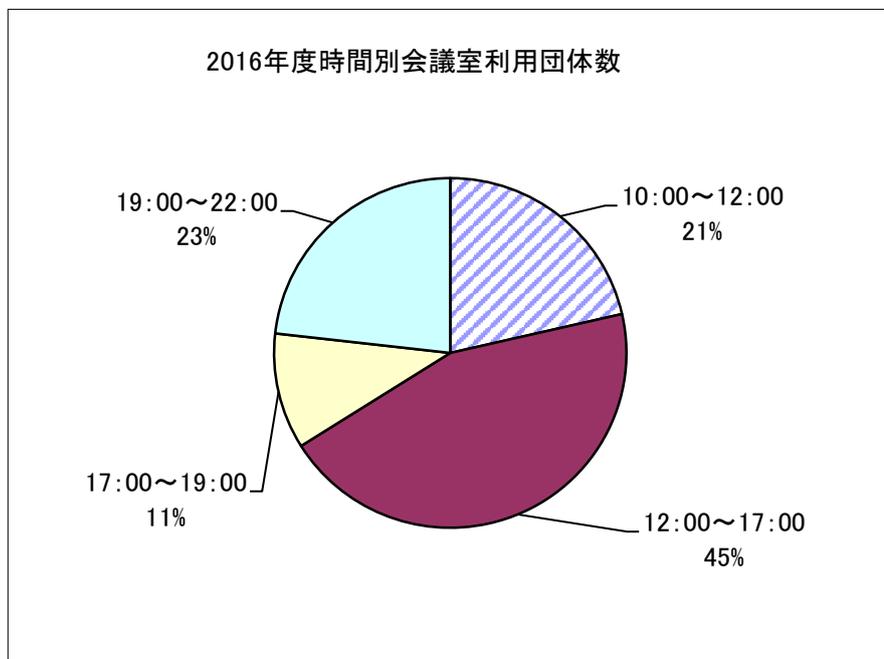
【センター利用状況(曜日別)】

	月	火	水	木	金	土	日・祝	合計
利用団体数	75	149	176	84	94	127	45	750
利用者数	413	746	901	456	480	728	322	4,046



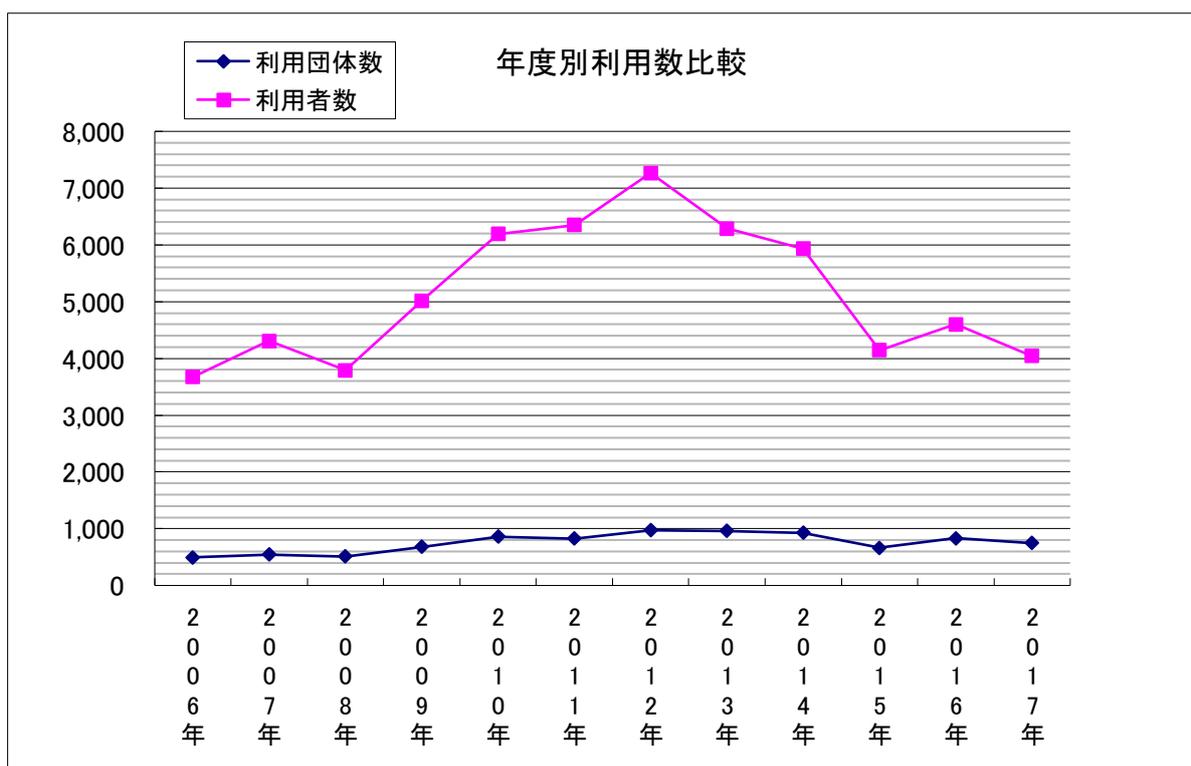
【時間別会議室利用団体数】

利用団体数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10:00~12:00	12	19	18	20	18	12	15	11	19	14	17	14	189
12:00~17:00	25	23	29	17	27	29	33	30	27	29	26	38	333
17:00~19:00	6	10	7	9	6	9	7	6	6	6	10	9	91
19:00~22:00	13	11	13	6	9	10	13	12	12	13	12	13	137
合計	56	63	67	52	60	60	68	59	64	62	65	74	750



【年度別利用数比較】

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
利用団体数	496	543	510	682	862	828	972	960	929	663	833	750
利用者数	3,673	4,306	3,790	5,015	6,191	6,352	7,266	6,290	5,932	4,146	4,598	4,046



(2) 市民活動基礎講座ならびに市民活動スキルアップ講座の開催業務

内容

地域活動に参加したい、社会貢献活動に興味がある etc そんな方々を地域の身近な活動現場にご案内する「NPO 現場体験ツアー」を開催した。

(第1回) 平成29年9月16日(土) 9:00~12:00 参加者: 11名

「家族」をテーマに開催する音楽フェスティバル「ハズミズム」の運営ボランティアとして活動した。テント張り、駐車場への誘導ルートの点検、場内のサイン設置等を通して、イベントの裏舞台の仕事を体験した。自主的・自発的に活動するメンバーから「まちで楽しいことを創り出していく」エネルギーを感じ取り、社会活動の魅力を学んだ。



★詳細は
P. 7 へ

(第2回) 平成29年11月5日(土) 9:30~12:00 参加者: 19名

緑豊かな山、美しい瀬戸内海の風景。私たちの暮らしと共にある身近な自然環境を「里山」と呼ぶ。農林漁業や日常生活等、人の営みとともに育まれてきた二次的な自然環境を指す。今、一次産業への従事者が減り、管理が行き届かなくなったり、利用の変化が起こったりして、「里山」の生物に危機が及んでいると言われている。今治市の現状はどうだろうか。自分たちにできることを考えて欲しい…そんな思いで活動する団体「NPO森からつづく道」のナビゲートでふるさと・今治の自然環境の現状を知る現場見学会を開催した。手付かずの自然が残る今治城の犬走、織田ヶ浜の海浜植物等の観察を通して、保全と共生を考える機会となった。



★詳細は
P. 9 へ

	<p>(第3回) 平成29年12月23日(日) 13:00~16:00 参加者:7名</p> <p>料理、工作といったものづくりを通して、島の良さを発信する「創作クラブGrian」の活動現場を訪問した。お正月のフラワーアレンジメントをしている現場をお手伝いしながら、担い手である島に暮らす女性たちと交流した。故郷を支える心意気を肌で感じる体験となった。</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>★詳細は P. 11へ</p> </div>
対象	市民活動に関心のある一般市民(高校生中心)
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手の固定化、高齢化などの課題を抱える団体が多い中、市民活動未経験層が現場体験できるプロジェクトとした。 ・ボランティアの参加を希望する団体をピックアップして、活動希望者とのマッチングに資する活動となるよう工夫した。 ・「市民が共におこすまちづくり事業補助事業」を行う団体にはヒアリングをして、現場のニーズを確認してのプログラム立案を行った。
結果課題	<p>地域の歴史、文化、環境の保全、交流や参加型のまちづくりなど、故郷・今治市のポテンシャルをいかした活動の現場見学となった。交流人口拡大、暮らしやすいまちの潜在能力の可視化等、人口減少に歯止めがかからないまちの課題に市民が真剣に向き合う現場で学び深いものだった。活動への認知度はまだまだ低く、こうした活動への理解者、参加者を増やすことの必要性を感じた。人材、資金の獲得も必須で、そのため求められる団体の信頼性向上、適切な情報開示を支援したいと感じた。今後、学生インターンの受け入れ、社会人が仕事の延長線上で手伝える機会構築など、多様な世代が活動とつながる支援ができることを目指したい。</p>

(3) 機関紙発行とこれに付随する情報収集業務

内容	<p>「夢サラダ」(年間2回)、「得夢サラダ」(年間12回)を編集、発行した。また、一般市民が訪れる場所に「夢サラダ」を設置し、活動経験のない一般市民に情報を届け、市民活動の意義や魅力を伝えた。</p>
対象	市民活動団体・一般
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の担い手を紹介することで、まちの特性を感じることができる誌面とした。 ・ホームページでも情報を伝えた。
結果課題	<p>市民活動団体108団体、施設・機関33箇所に配布した。配布部数は毎月冊子2,015部、掲示用350部となった。身近な地域の魅力を伝える誌面構成としたことで、市民活動経験のない方にも読みやすいとの意見をいただいた。掲載内容は、本会のホームページへ掲載し、多様な方へ情報を届けるよう努めた。より多くの方に購読してもらえるよう、誌面の工夫、配布・掲示場所の開拓に取り組んでいきたい。</p>

NPO現場見学会

音楽フェスティバル「ハズミズム 2017」



「家族」をテーマに、小さなお子様連れでも気疲れすることなく音楽を楽しめるフェスティバル「ハズミズム」。5周年の節目を迎える今年度は、「bonobos」、「鎮座 DOPENESS」など、厳選された様々なジャンルのアーティストが集結した。ただ、この日はあいにくの雨模様。2日間開催の予定を1日に短縮しての開催となったが、それでも奏でられる音楽にのって、夕暮れのひと時に、会場となった市民の森 野外ステージには笑顔の花が咲いた。この舞台裏に密着し、ボランティア活動の意義を体感する現場見学会を開催。朝早くから始まったボランティア活動の様子をお伝する。



大人も子どもも「ハズム」



実行委員会代表の豊島吾一さん。ドラム缶からできた楽器「スティールパン」の演者でもある。

親子で楽しむハズミズム

野外の開放的な雰囲気の中で、音楽と出会い、ゆっくり過ごせる秋のイベントとして定着してきた「ハズミズム」。活動の主体は「子育てを音楽やアートを通して楽しくサポートしていく」市民活動団体だ。「周囲に気をつけて、ゆっくりできない。」「行くところが限定されてしまう。」「子育て中にこのような思いを抱いている方は多いのではないだろうか。特に音楽をはじめとする文化・芸術鑑賞は子どもが小さいうちは限定されてしまう。「親子でライブに行くと、ハラハラ。子ども連れでも気後れせず過ごせる空間をつくりたかった。」「ハズミズム」を開催するきっかけをこう語ってくれたのは、実行委員会の代表の豊島吾一さんだ。子育て中の思いを周囲に話すと、共感の輪が広がった。自身もスティールパンの演者で、ミュージシャンの仲間にも子育てで真っただ中のメンバーが増えつつある境遇も後押しした。



地方で開催される貴重な「本物」フェスティバル

「ハズミズム」には毎年、バラエティ豊かなアーティストが勢ぞろいする。「ラインナップが素敵。」「厳選された音楽を生で聴ける貴重な機会。」と、毎年、高い評価の声が聞かれる。確かに、今年度のプログラムも多彩なアレンジで、どれも「本物」。次代を担う子ども達にこそ聴いてほしいと強く感じるものだった。また、屋外開催は親子連れの参加者に適している。緑に包まれた広々とした空間はのんびりでき、飽きても公園で気軽に遊べる。「会場がすばらしい。心から音楽を楽しめる。」と絶賛したのは、千葉から毎年、お手伝いに来ているというメンバーの男性。今治市民として、このステージを誇りに思い、もっと活用したいと改めて、地域の貴重な資源を見直す機会となった。



WAIWAI STEEL BAND

豊島さんもメンバーとして参加するスティールパンオーケストラ。今治・愛媛の縁が大所帯を生んだそう。



鎮座 DOPENESS

独特な声質&巧みなスキルを駆使したラップで会場を巻き込んでいく。前のめりになる聴衆が印象的。



Bonobos

卓越した演奏、そして心にぐっと響くボーカルの声。夕暮れに向かう会場をうっとりした優しさに包んでくれた。



準備の時から流れる“居心地のよさ”

15:00 開場に向け、降りしきる雨の中に合羽を着て集合だ。

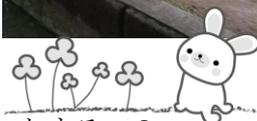
裏舞台を支える実行委員

出迎えてくれたのは「ハズミズム」実行委員の皆さん。30歳から40歳代の働き盛りのメンバーが中心だ。職種は様々だが、仕事と活動を両立させているだけあって、元気で意欲的な方ばかりだ。テント張り、駐車場への誘導ルートの点検、場内のサイン設置、ごみの回収など、準備することがたくさんある。天候不順に伴い、風雨に備えたメンテナンス業務が加わり、土嚢を置いたり、配置を変えたりと、皆が相談しながら動く。それでも、着々と会場が出来上がっていき、5回目の開催までに積み上げたノウハウがいきっていた。準備中は終始、和やかな雰囲気だ。「来場者が心地よく過ごせるように…」、異口同音に語られるのは思いやりの気持ち。裏舞台を支えるメンバーの心意気は、醸し出されるフェスティバルの”あたたかさ”に繋がっていると感じた。



「子ども連れの参加が多いので、授乳等のスペース確保等、細部に渡って気を配っています」とのこと。

自らが楽しむ姿勢



「親子で楽しめるハズミズムにはどんなしかけがあるの?」「イベントの裏方ってどんなことするの?」

ちょっとした興味を持って、ボランティア現場に足を運んだ。そこで感じたのは、実行委員のメンバー自身が、この活動にやりがいを感じ、楽しんでいることだ。「このまちで楽しいことを創り出していく“ひな型”を見せたかった」と豊島さん。誰かが作成した計画に基づいて、運営しているのではない。『ハズミズム』は自分たちのフェスティバル。「必要な準備、提供したいサービス等、全て自分たちで提供していく」、そんな考えが実行委員全員に浸透している。だから自ら楽しんで動く。ボランティア活動というと、誰かに指示されり、また「する側」「される側」という関係が出来上がっていたり…。そんな限定的なイメージを持っている方には、ボランティア活動の価値を体感できる素敵な現場だと感じた。



WAIWAI STEEL BANDのメンバーであり、実行委員でもある清水さん。「大人が本気で“遊んでいる”姿を見て欲しい」と笑顔で語ってくれた。若者たちに響く言葉だ。



他市では行政が主催することが多い音楽フェスティバルだが、市民が自主的かつ主体的に企画・運営する音楽フェスティバルだけあって、“手づくり感”に溢れていた。ライブ会場には今治市近郊の飲食店やクラフトが出店する「ハズミズムマルシェ」が同時開催されていた。参加型のワークショップもあって、親子でゆっくり過ごせる。誰でも自由に参加できるプログラムは、それぞれ集まった見知らぬ人々が、いつの間にか打ち解けあう面白さがある。そこに心地よく音楽が流れ、音楽を楽しむ喜びを共有する。このイベントには人と人をつなぐ力があると感じた。



ハズミズム実行委員会 hazmisminfo@gmail.com

フェスティバル開催に向け、準備は半年前から始まっているそう。あなたも参加してみませんか。

NPO現場見学会「ふるさと・今治の豊かな自然を知ろう！」

緑豊かな山、美しい瀬戸内海の風景。私たちの暮らしと共にある身近な自然環境を「里山」と呼ぶ。農林漁業や日常生活等、人の営みとともに育まれてきた二次的な自然環境を指す。今、一次産業への従事者が減り、管理が行き届かなくなったり、利用の変化が起こったりして、「里山」の生物に危機が及んでいると言われている。今治市の現状はどうだろうか。自分たちにできることを考えて欲しい…そんな思いで活動する団体「NPO森からつづく道」のナビゲートでふるさと・今治の自然環境の現状を知る現場見学会を開催した。手付かずの自然が残る今治城の犬走、織田ヶ浜の海浜植物等の観察を通して、保全と共生を考える機会となった。



身近な自然環境に関心を！



「NPO森からつづく道」の小澤潤氏。今回の現場見学会のフィールドを長年にわたり、調査している。



小中学生から70歳代まで、幅広い年齢層が参加した。身近な自然環境に目を向けることがまずは第一歩。



瀬戸内の原風景



里山を守る

「あさがりとれない」「魚が住めない海になっている」、そんな嘆きが聞こえる。瀬戸内海の現状だ。こんな問題提起からはじまったNPO現場見学会。身近な自然環境にどんな変化が起こっているのだろうか。私たちは日々の暮らしの中で、身近にある海・山を利用してきた。多種多様な魚介類がとれる瀬戸内海は豊かな漁場だ。深い森が人里近くにあり、薪(たきぎ)や山菜の採取などで足を踏み入れてきた。こうした人の営みによって「里山」を育ててきたのだ。石油利用の生活で木材を利用することが減り、管理されなくなった森林。住宅地等の開発で埋め立てられた海岸。過剰な利用で「里山」は、その独自の生態系を失いつつある。

希少な動植物を次世代に

教えてもらったのが「生物多様性」という言葉だ。様々な生きものが互いに「つながりあい」、そして「バランスをとりながら」生きている。この生きものとそのつながりの豊かさを「生物多様性」という。私たち人間もたくさんの種の中の一つ。つながり合い、支え合って、今の暮らしがあるのだ。毎日、食卓に豊かな食べ物が用意されることも、実はこの多様な生物の上に成り立っていて、「もしかしたら日本食が食べられなくなるかも…」そんな怖い話も小澤氏から飛び出した。実際、動植物は激減しており、これを受け、愛媛県は「愛媛県野生動植物の保護に関する条例」を制定した。特定希少野生動植物の保全が目的にある。特定希少野生動植物保護区は県内に6箇所ある。驚くのはその内、なんと5箇所が今治市にあるということ。「今治市は豊かな自然の宝庫！」そんな認識を参加者で共有した。

今治市の保護区の名称	保護区の所在
カスミサンショウウオ保護区	片上地区(今治市波方町樋口)
カスミサンショウウオ保護区	宅間地区(今治市宅間)
ダルマガエル保護区	台地区(今治市大三島町台)
ハマビシ保護区	織田ヶ浜(今治市東村)
ウンラン保護区	織田ヶ浜(今治市東村)

*ハッチョウトンボ保護区は西条市。

天然の水族館「今治城」

人と自然の共生を考えるフィールドの一つが日本屈指の海城として名高い「今治城」だ。海水を利用した堀、石灰岩を使った石垣等、独特の工法だ。参加者が集まったのは、その堀に面して張り巡らされた狭い通路「犬走り」。特別の許可を得て、入らせてもらった。文化財として、守られてきた今治城。中でも「犬走り」は大切に保護され、草刈り等の管理も定期的に行われているため、“タイムカプセル”のように安定した環境がある。「ここを“天然の水族館”にしたい」、小澤氏からはそんな夢が語られた。



石垣には巻貝がたくさんくっついていました。中には高級食材も。



海岸や耕作地を特徴づける植物もあれば、山地性の植物もあり、複雑なのが「今治城」の面白さ。参加者が興味を持ったのは「ニラ」「アケビ」等、食用となる植物が多いということ。また薬草も幾種類もあり、築城の頃から活用をされていた可能性も。

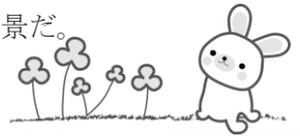


「海の宝石・ウミウシ」。今治城には何種類も生息している。「見たい！」という参加者の声が届かず、この日は観察できなかった。

覗き込んでみているのは「ケヤリムシ」。海の流れが直接当たる北側の石垣に生育している。今治港周辺には生息しておらず、今治城の堀に入ってきた経緯が謎なんだそう。



小さな入り口をくぐり、早速、内堀を覗く。底には赤い石が見える。「今治城の謎の一つ。なぜ石が赤くなっているのか?」、小澤氏の問いに、参加者一同、首をかしげる。実は真水が底から湧き上がっており、その成分で石が変色しているのだという。海水と真水が入り混じり、タイやヒラメと一緒にメダカが泳ぐ不思議な住処だ。この日もたくさんの魚介類を観察した。目を石垣に転じる。石灰岩に小さな穴を観察することができる。貝類が空けた穴で、運搬された場所の想定につながるものだという。野づら積みという工法で積み上げられており、多様な植物が生息できる空間をつくっている。ツメレンゲの大きい群落、ヒメウラジロ・シロイヌナズナ・イヌノフグリ等の希少種の説明を受けた。こうした風景は瀬戸内の島しょ部に多く見られ、まさに瀬戸内の原風景だ。



行政・企業・NPO・住民の協働



次に訪れたのが特定希少野生動植物保護区の「織田が浜」だ。まずはビーチ全体を見渡す。波打ち際に近いところから内陸部に向かい、植物群落が帯状に移り変わる「ゾーネーション(帯状構造)」と呼ばれる現象の説明を受けた。この最前列、つまり一番、波浪の影響を受けるところで“頑張っている”のが、絶滅が危惧される「ハマビシ」だ。昨今、大勢で一斉に海岸清掃を行い、ゴミ拾いの後、除草もしてしまうという残念な行動がある。植物がある海岸が自然で、“草一つない裸足で歩ける砂浜”づくりは人間のエゴだ。「ハマビシ」には棘があり、痛いので抜かれてしまうのだという。ここ「織田が浜」も夏には海水浴客で賑わうビーチだ。そして、ちょうどこの「ハマビシ」の生息地から、約8kmにわたる白砂青松の海岸線が延びる。美しい海岸とは何か。しっかり考えて、保護したいものだ。うれしいことにこのエリアは、行政やNPOの協働による調査を受け、地元自治会、小中学校、企業による保護活動が大きく動いている。毎日、ゴミ拾いを続けている地元有志も多い。そんな保全活動が実を結び、絶滅の危機を乗り切ろうとしているのが「ウンラン」だ。織田が浜で自生が確認されて以降、株分けや挿し木で増殖させた株を移植したり、日々の水やりをしたりして、地元の保全活動が進む。キンギョソウに似たかわいらしい黄色い花を咲かせる「ウンラン」。ぜひ、その時期には観察したいと感じた。



織田が浜のゾーネーション。

一年草のハマビシ。植物自体が目立ち、除草されることが多いのだそう。



海岸の砂地に生える多年草のウンラン。かわいい花が砂浜を彩るそう。

ふるさと・今治市の豊かな自然、生物多様性を守るため、私たち一人ひとりに何ができるのだろうか。身近なところに生き物の「すみか」があり、中には絶滅の危機に瀕しているものもある。身勝手な行動で外来種を持ち込んでしまったり、知識のない乱獲で里山が荒らされたりしている現実がある。そんな多くの気づきを与えてくれた現場見学会だった。生き物達の「すみか」を守り・育てていくための一歩につなげたい。

NPO森からつづく道 <http://morimichi.org/>
あなたも生物多様性の調査・保全活動などに参加してみませんか？

NPO現場見学会 島時間で楽しむものづくり

「創作クラブ Gr i a n」

「瀬戸内しまなみ海道」でつながる島の一つ・伯方島。造船や海運業が盛んな島で、島外から働きに来ている人も多い。誰もが口ずさむメロディーで馴染みがある「伯方の塩」の発祥の地でもあり、多くの人に島の名前は知られている印象だ。ただ、島民が語るのは隣の大島・大三島に比べて、特徴がないということ。「自分達で伯方島の特徴を創っていかないと…。」、そんな思いで活動をはじめたグループがある。料理、工作といったものづくりを通して、島の良さを発信する「創作クラブ Gr i a n」だ。お正月のフラワーアレンジメントをしている現場に参加させていただいた。指導者は島に暮らす女性たち。故郷を愛する島民の誇り、暮らしを支える心意気を報告する。



担い手は島の女性達

きっかけは「しまのわ博覧会」

2014年「瀬戸内しまのわ2014」が開催された。テーマは「島の輪がつながる。人の和でつなげる。」多島美を誇る瀬戸内海。無数の島が点在し、有人島も150余りある。そんな海でつながる地域、そこに暮らす人の「つながり」について、瀬戸内海国立公園指定80周年を機に捉えなおそうとの呼びかけだ。約7カ月に渡り、数多くのイベント等が催され、住民の自主企画による取り組みも多彩に展開された。普段の暮らしの中にある楽しみを訪れた人に体感してもらうスタイルで、まさに「島の暮らしの博覧会」。私たちにとっては何気ない日常生活を、旅という非日常を通して味わっていただくプログラムという形におきかえるチャレンジだったように思



代表の田窪良子さん。Uターンで島へ帰郷。最初に「やろう！」と口火を切るのはU・Iターン組の役割かも…と笑う。



のんびりゆったりしま時間で休息

「しまのわ2014」では島民が島民に呼びかけ、伯方島でできる体験メニューを寄せ集めた。着眼点は形に残るものを提供すること。「一緒に創作し、それをお土産で持って帰ってもらう。」伯方島のことを思い出として心に刻んでもらおうと知恵を絞ったと「創作クラブ Gr i a n」代表の田窪良子さんは振り返る。「Gr i a n」のメンバーは女性が中心。U・Iターン、嫁いできた人と立場は多様だが、皆、伯方島が好きで、ここでの暮らしを楽しむ島のお姉さん、お母さんだ。女性は家事に子育てに日々忙しい。それでも「しまのわ」という期間限定であれば、「楽しんでみよう」と前向きだったという。

イベントが終わり、精力的に活動を展開した女性たちには「自分たちの力でできた」という大きな達成感が残った。多くの島民からも「楽しかった」との声が届いた。伯方島は5つの集落から成っている。活動を通して、地区や年齢を超えた人脈もできた。30歳代から40歳代が活動の中心である「Gr i a n」。「若い人が頑張ってくれている」と、島の“先輩女性”からの称賛の声は特に励みになった。伯方島は農産漁業を担う女性達が中心になって、生活研究グループを結成し、活動を展開した歴史がある。島おこしの担い手の世代交代がうまくいった成功事例とも言える。



カラーソルト ▶
“伯方の塩”で有名な島ならではの。夏祭りとジョイントし、県外からの参加者も。

▲アロマアロマdeバスボムづくり
好きな色と香りをチョイスできるのがハンドメイドの良さですね。



▲多肉植物の寄植え & 桜餅づくり
植物×食のワークショップ。
島女子講師もWで活躍。



島女子講師の育成へ

自らが楽しむ姿勢

「G r i a n」では毎年2月頃にメンバーが集まり、その年のプログラムを検討する。「面白いなと思ったこと」「伝えたいなと思ったこと」をそのままプログラムにしていく。



「実は中心メンバーより、年上世代。若い人との接点ができて楽しい」と語る島女子講師・西部久美子さん。

今日の創作活動は「お正月のフラワーアレンジメント」。人気の定番メニューだ。講師を務めるのは、伯方島で生まれ、伯方島で育った西部久美子さんだ。花き栽培農家で生まれた西部さん。幼い頃から花に親しみ、また花きへの知識、花をいかす技術の一環としてフラワーアレンジメントを指導する先生にも恵まれた。

創作がはじまる時間に合わせ、会場となっている「鎮守の杜」に参加者が入ってくる。「鎮守の杜」は旧北浦保育所跡を利用したもので、「G r i a n」の活動の拠点になっている。赤い屋根がかわいらしく、一步足を踏み入るとどこか懐かしい雰囲気にも包まれている。そんな空間に華やかな生花が拵げられていた。目に飛び込んできたのは花の王様“カサブランカ”。お正月ということで「松・竹・梅」も拵っている。そして、西部さんが思いを込めて用意したのが、愛媛県が開発した“デルヒニウム”というピンク色の可憐な花だ。

「自分で花を活けていたが、お正月らしい花をこれだけ拵えることはできない」と話してくれたのは、去年も参加したという島内の女性。新年を迎えるために欠かせない年中行事として定着していく予感がした。

▼幅広い年齢層が参加する活動。

顔見知りが多く、和やかな雰囲気
でアレンジが進む。

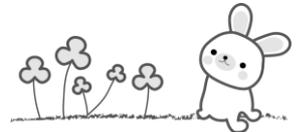


▲愛媛県が開発した“デルヒニウム”「さくらひめ」との愛称があるかわいらしい花。

▲お揃いのブルーのTシャツは“しまのわ”の時のユニフォーム。現場見学会に参加した一人の高校生は「島おこし」活動に興味津々。メモを取りながら活動の様子を聞いた。

人材育成が鍵

西部さんのように、メンバーの中で講師を務める担い手を「島女子講師」と呼ぶ。島には習い事をしている女性が意外に多い。それをいかしてもらうのだ。初めは多くのメンバーが「教えるなんて…」と尻込みしてしまう。そこを皆で応援しながら、経験を重ねていくことで担い手を育ててきた。実際、趣味、家業を通して育んでいる豊かな知識や技術は本物だった。ベースに“おもてなし”の心があることが何より大きい。今年度、新たなプログラムとして好評だったのは、採れたての島の食材をいかした地の料理教室だ。講師を務めたのは、伯方島出身で、今は島外で暮らす女性。継続的な活動を発信する中で、島にゆかりのある人材との出会いにもつながったのだ。



人口減少、高齢化など地方の多くが抱える問題。今治市の島しょ部においてはより深刻だ。それでも温暖な気候、恵まれた自然、農山漁場からの産物など、都会にはない魅力に溢れている。「G r i a n」の活動は島民にこうした豊かな島の暮らし、そして何よりも温かい人と人との縁という価値を伝える取り組みのように思えた。仲間が集まり、「できることをやろう」というのが活動の原点だ。自分たちが楽しむスタイルで、決して無理はしない。「子どもに手がかからなくなった。」そんな世代が活動の中心だ。これから先、仕事や家庭の事情で活動への関わりが大きく左右されるかもしれない。それでも「G r i a n」の活動を微笑ましく見守る、先輩の女性活動家がいるように、きつとうまく世代交代が進むように思える。人が島をつくり、島がまた人を育む。そんな島だと感じた。

創作クラブG r i a n <https://hakatadetsukuru.jimdo.com/>
[のんびりゆったりしま時間でココロも休息] あなたも参加してみませんか。

(4) 市民活動団体相互の交流推進業務

◆使用者協議会

平成 29 年 5 月 8 日 (月) 10:00~11:30 参加者: 12 名

事務室使用団体、会議室使用者と合同でセンター防火避難訓練を行い、その後、今年度のセンター事業の企画内容を説明し、使用者の意見をもらう「使用者協議会」を開催した。使用者は互いの活動を報告しあい、横の連携をつくりながら活動を進めたいとの意見が出された。団体の利用者の多様な受け皿づくり、会員募集の手法などの意見交換を深めた。



平成 29 年 12 月 19 日 (火) 11:00~12:00 参加者: 16 名

センター使用者によるセンター大掃除を行い、その後、センターの管理運営業務などについて使用者の意見をもらう「使用者協議会」を開催した。今年度は今治市全域の公共施設の利活用の検討があったことから、当施設の必要性等が改めて意見交換された。利便性が高く、愛着のある施設という声が聞かれ、今後も参画型で利活用していくことが共有された。また、先般、水漏れがあったことを報告し、老朽化している施設なので、劣化に伴う不測の事態があることについて注意喚起した。



平成 29 年 8 月 2 日 (水) 13:00~14:30 参加者: 17 名

今治市内の公共施設のあり方を検討する中、当センターの運営のよりよい方向性を意見交換した。今治市に一つしかない市民活動の拠点であるから、施設の維持管理計画をしっかりと行い、官民の協働による運営を行いたいことが共有された。利用状況の推移等を確認した後、利用者相互の情報交換、交流の機会の促進への希望が出され今後の運営計画に盛り込むことが提案された。



(出された意見の一部)

- ・使い勝手がいい。こじんまりとした施設だ。
- ・施設に来ることで情報が得られる。
- ・貸事務所機能は独自性あり。必要。
- ・「会いに行こう」と楽しみになる座談会を。
- ・利用団体が運営に協力する企画があればよい。
- ・団体相互の交流を促進する会をしては。
- ・大規模な修繕も計画的に。
- ・耐用年数は? 使用計画を明確に。
- ・網戸、空調等の不具合は改善を。
- ・参画型の企画で団体の連携を。

	<p>平成 29 年 10 月 18 日（水）13：00～14：30 参加者：13 名</p> <p>前回の意見交換を受け、今後の運営計画の素案を提示した。利用者拡大、市民活動への理解促進のための情報発信、研修会の開催等について意見交換した。老朽化が進む施設であるが、当面は市民活動の拠点として活用する。代替施設について、適切な施設の情報収集を続けることを市役所から説明を受けた。</p> <p>今後のスケジュールについては今治市民活動センター管理運営計画を策定し、30 年度の再評価につなぐことを共有した。</p> <p>（出された意見の一部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議室、交流スペースに加え、貸事務所があるのが独自性だ。移転する場合、この特色を引き継げる施設が望ましい。 ・市担当課が移転先について情報収集を進める。「旧市内にあり、アクセスがいいこと」「耐震性に問題がないこと」「駐車場があること」等を念頭をお願いしたい。 ・利用者拡大等のソフト充実については、登録団体のスキルを活かして参画型で促進できることはしていきたい。
対象	使用登録団体・市民ボランティア・行政職員
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・今治市内の団体の活動紹介の場とする。 ・多様な活動に触れ、活動の広がりを感じてもらえる取り組みとする。 ・センターの使用に主体的に関わっていただけるよう依頼する機会とした。施設・設備、備品などのハード整備の優先順位、講座などのソフト支援の重要事案などへの共通認識構築の場とする。
結果課題	<p>「使用者協議会」の位置づけで、センター事業を話し合う機会となった。会議室や事務所の使い方のルール等の見直し、講座のテーマの検討等、ハード・ソフト両面について、使用者自らが参画しながらセンター運営していけるよう、協議の場を有意義なものにしていきたい。</p>



（５）ボランティアコーディネート業務

内容	ボランティアの応援を求めている方とボランティア活動をしたい方をつなぎ、双方が対等な立場で共に問題解決を図った。
対象	ボランティアの応援を求めている組織・個人 ボランティア活動をしたい方
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・今治市社会福祉協議会と連携をとりながらすすめる。 ・情報提供を求めている人には、機関紙「得夢サラダ」やホームページなどを利用して活動を紹介する。
結果課題	<p>年間 108 件のコーディネーションを行った。ボランティア活動の経験がない方には来館、聞き取り、活動の斡旋を丁寧に行った。定年退職後の自由な時間を活用し、ボランティア活動をはじめたい人に主体的・自発的に取り組んでいただける活動を発掘し、紹介した。夏休み、春休みは学生のボランティア活動希望者の相談が多く、多様な分野・テーマの活動を紹介し、受給調整を行った。一人ひとりがまちを構成する重要な一員であることを自覚できる活動を調整する大切さを感じた。</p>

(6) 相談業務

内容	<p>団体設立や運営などのアドバイスを、電話・メール・来所にて日常的に受け付け、対応した。4年目となる支所単位での「出張相談会」は、相談件数は4件と少ないながら、今治市陸地部にある本センターには足を運びにくい島嶼部を中心に好評だったことを受け、今年度も島嶼部4島・6か所で開催した。</p>																								
対象	<p>市民団体・行政職員</p>																								
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動団体が自らの課題を整理し、その解決策を発見することを支援する。 ・職員で対応できない専門的な質問については、地域資源（地域の専門家、他の支援センターなど様々なテーマに応えられる人、組織）を活用し、支援を行う。 ・初歩的な質問については、フロアーに掲示し、来館者に視覚的に知らせる。 																								
結果課題	<p>団体設立や運営など、134件の相談に電話・メール・来所にて対応した。ボランティア団体を立ち上げたい個人、グループからNPO法人設立・運営相談が寄せられるほか、広報相談、ネットワーク構築相談など多岐にわたる相談が寄せられた。相談に応えるだけでなく、相談者の次のニーズをコミュニケーションの中で引き出し、対応するよう配慮した。</p> <p>■使用者の声■</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても親切に対応してくれる。 ・優しく、丁寧で助かる。 ・休みの日や夜間なども相談対応いただけて助かる。 <p>■出張相談会■</p> <p>広域合併した今治市において、周辺地域にお住まいの方にも、地域の人々の支え合い活動、社会サービスの提供などについて、気軽に相談する機会をつくることを目的に開催。昨年に続き、島嶼部に限定して自発的な市民活動の促進、担い手育成を目指し、開催した。空き施設の活用、賑わい創出をテーマにした相談が寄せられ、仲間を募ってのグループづくり、プログラム立案の助言などを行うことができた。出張相談の機会は各エリア1回のため、その後は電話やメールなどで相談を受けたり、センターに足を運んでいただいたりして継続的に情報提供することができた。</p> <p>年に1回の出張相談日について、市民への周知が行き届いていないこともあり、相談件数が伸びていない。島しょ部の地域住民へ届く有効な広報の手段を検討し、出張相談会の実施を広く知っていただくよう尽力したい。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">宮窪会場</td> <td style="padding-left: 20px;">6月26日(月)</td> <td style="padding-left: 20px;">10:00~12:00</td> <td style="padding-left: 20px;">0件</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">吉海会場</td> <td style="padding-left: 20px;">6月26日(月)</td> <td style="padding-left: 20px;">13:00~15:00</td> <td style="padding-left: 20px;">1件</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">伯方会場</td> <td style="padding-left: 20px;">6月28日(水)</td> <td style="padding-left: 20px;">10:00~12:00</td> <td style="padding-left: 20px;">1件</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">関前会場</td> <td style="padding-left: 20px;">7月3日(月)</td> <td style="padding-left: 20px;">10:00~12:00</td> <td style="padding-left: 20px;">0件</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">大三島会場</td> <td style="padding-left: 20px;">7月5日(水)</td> <td style="padding-left: 20px;">10:00~12:00</td> <td style="padding-left: 20px;">0件</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">上浦会場</td> <td style="padding-left: 20px;">7月5日(水)</td> <td style="padding-left: 20px;">13:30~15:30</td> <td style="padding-left: 20px;">0件</td> </tr> </table>	宮窪会場	6月26日(月)	10:00~12:00	0件	吉海会場	6月26日(月)	13:00~15:00	1件	伯方会場	6月28日(水)	10:00~12:00	1件	関前会場	7月3日(月)	10:00~12:00	0件	大三島会場	7月5日(水)	10:00~12:00	0件	上浦会場	7月5日(水)	13:30~15:30	0件
宮窪会場	6月26日(月)	10:00~12:00	0件																						
吉海会場	6月26日(月)	13:00~15:00	1件																						
伯方会場	6月28日(水)	10:00~12:00	1件																						
関前会場	7月3日(月)	10:00~12:00	0件																						
大三島会場	7月5日(水)	10:00~12:00	0件																						
上浦会場	7月5日(水)	13:30~15:30	0件																						

■出張啓発ブースの運営■

不特定多数の市民が訪れるイベント等の会場において、市民活動の啓発ブースを設け、子ども達に市民活動への理解を促したり、活動希望者・活動者への助言を行ったりした。今治市民の祭り「おんまく」子どものヒロバ



今治明德短大学園祭



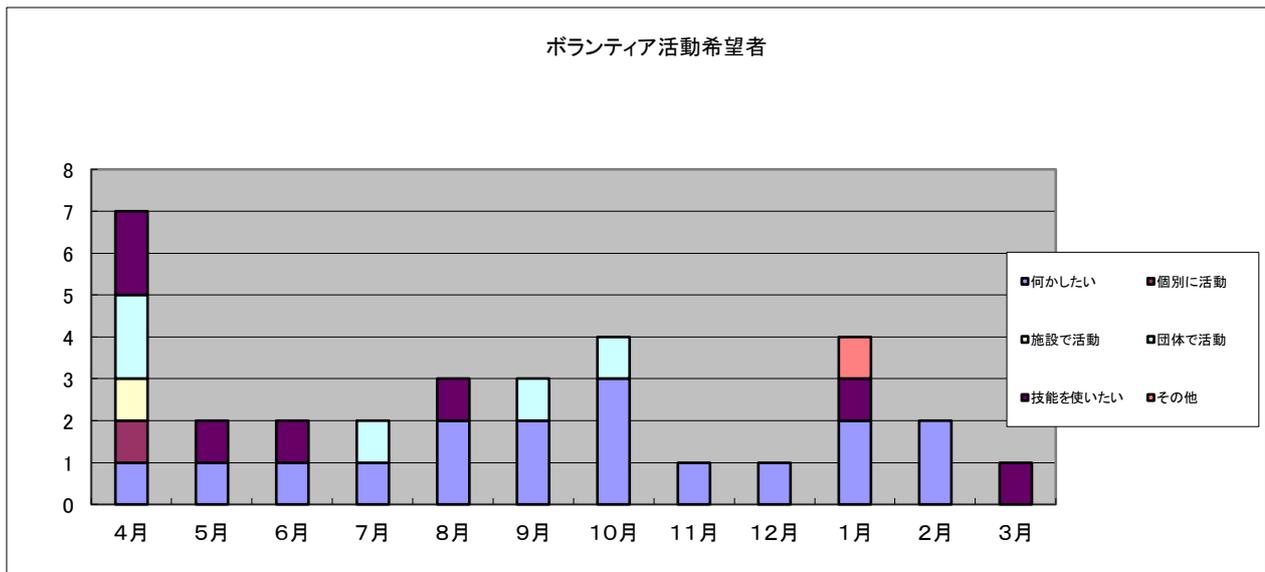
(7) まちづくりサポーター業務

内容	仕事や趣味などを通じて得た知識、経験や技術を、まちづくりのための様々な場所や場面にいかしていただけるよう斡旋・紹介を行う。
対象	ボランティアの応援を求めている組織・個人 ボランティア活動をしたい方
手法	・まちづくりサポーターとして活動できる組織・個人を登録し、HPで紹介する。 ・団体が内部の人材では解決できないことがある場合、斡旋する。
結果 課題	ボランティア活動希望者が相談に訪れた際には「まちづくりサポーター」制度の照会を行う等したが、新たな登録はなかった。個人が持つ専門知識、技術・能力、経験、人脈等をいかした登録、そのスキル等を発揮できる場とのコーディネーションを行う業務として、制度の運用の見直しを検討したい。

コーディネート状況詳細

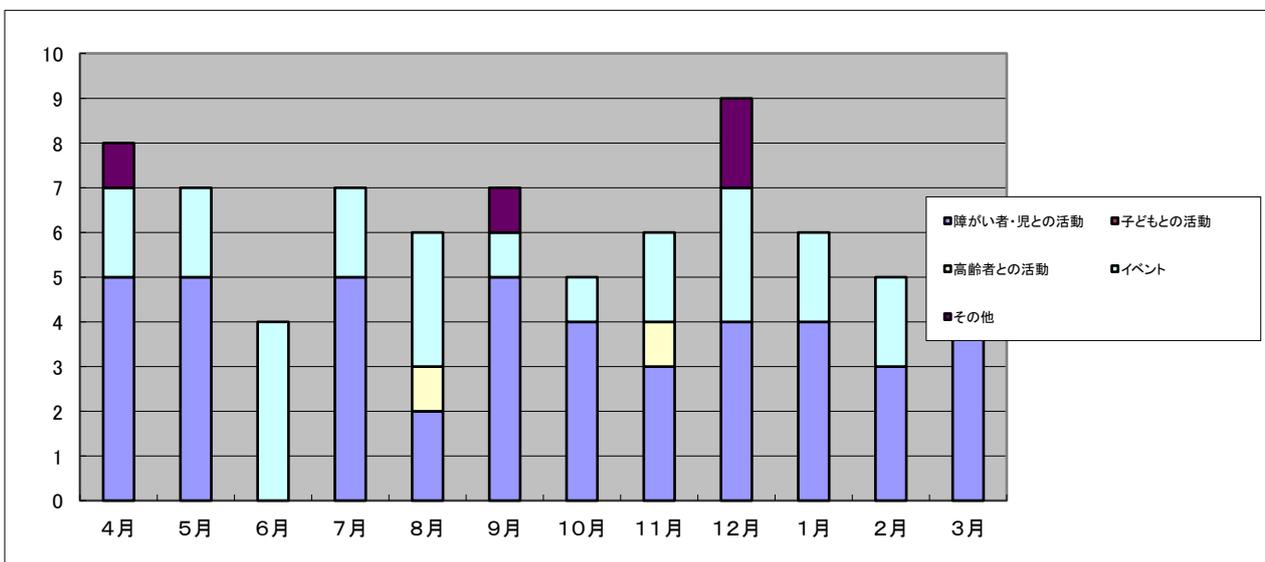
①ボランティア活動希望者

ニーズ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
何かしたい	1	1	1	1	2	2	3	1	1	2	2	0	17
個別に活動	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
施設で活動	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
団体で活動	2	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	5
技能を使いたい	2	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	7
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
合計	7	2	2	2	3	3	4	1	1	4	2	1	32



②ボランティアを受け入れたい組織・個人

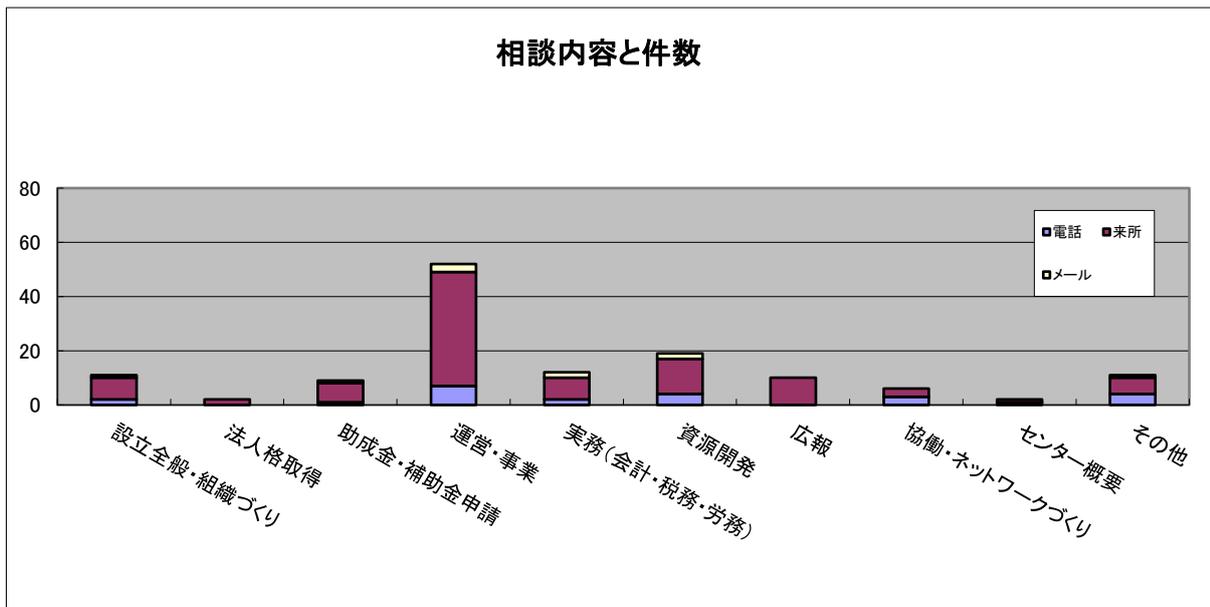
ニーズ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
障がい者・児との活動	5	5	0	5	2	5	4	3	4	4	3	4	44
子どもとの活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高齢者との活動	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
イベント	2	2	4	2	3	1	1	2	3	2	2	1	25
その他	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	1	5
合計	8	7	4	7	6	7	5	6	9	6	5	6	76



相談状況詳細

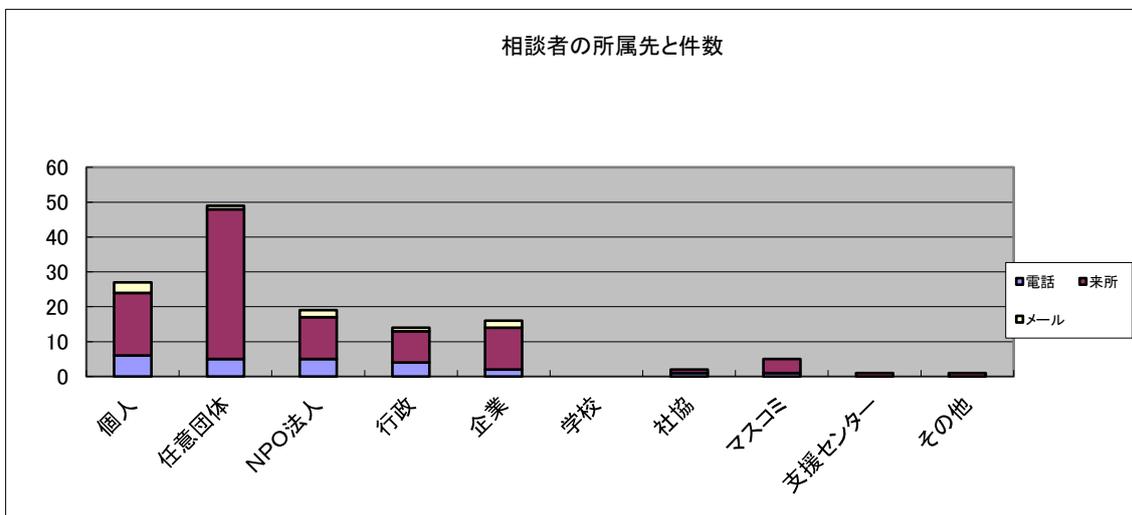
【相談内容と件数】

	電話	来所	メール	合計
設立全般・組織づくり	2	8	1	11
法人格取得	0	2	0	2
助成金・補助金申請	1	7	1	9
運営・事業	7	42	3	52
実務(会計・税務・労務)	2	8	2	12
資源開発	4	13	2	19
広報	0	10	0	10
協働・ネットワークづくり	3	3	0	6
センター概要	1	1	0	2
その他	4	6	1	11
合計	24	100	10	134



【相談者の所属先と件数】

	電話	来所	メール	合計
個人	6	18	3	27
任意団体	5	43	1	49
NPO法人	5	12	2	19
行政	4	9	1	14
企業	2	12	2	16
学校	0	0	0	0
社協	1	1	0	2
マスコミ	1	4	0	5
支援センター	0	1	0	1
その他	0	1	0	1
合計	24	101	9	134



2. その他の事業

(1) 情報提供事業

①トークカフェ in ラヂオバリバリ

期間：平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

協力：エフエムラヂオバリバリ

地域の情報を広く社会へ伝える手段であるコミュニティ放送を媒体に市民活動団体紹介、ボランティア情報などを毎週 1 回に発信した。

今年度は、草の根活動の動きを大きなチカラにしていくために、ラジオを通して人と人の交流を深める趣旨で展開した。(今治市民活動センター管理運営事業自主企画事業)様々な分野の活動規模も多様な団体が、ラジオというメディアを通して、広報活動を展開する場となった。日々の暮らしの中で感じる些細な気づきをもとに、身近な仲間たちの小さなグループからはじまる様子が伝えられた点、少人数ながら思いや責任感や役割を分担し、地域に根ざして活動する様子などは、活動未経験者へ大きなメッセージとなった。一方、こうした活動が事業を継続したり、拡充したりする力が不十分な点も見え、今後、一つ一つの活動が成熟した市民社会実現を目指す大きな広がりになるよう、人的交流や相互連携を生み出していくしくみの構築を感じた。今後は、事例等の共有をより有意義に進められたり、活動に必要なしくみを学んだりできるような展開を考えたい。

②ホームページの運営

期間：平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

センター事業の紹介と報告、ボランティア情報などをホームページに随時掲載した。広く情報を受発信することにより、ボランティア活動の仲介コーディネーション業務にも役立った。また、「今治市民活動センター」事業である「まちづくりサポーター」の制度紹介のページを設けた。サービスを提供したい個人・団体の紹介を発信した。NPO 等、ボランティアの応援を求める組織のニーズ紹介等を充実させることが課題である。

(2) 審議会・委員会への参加事業

行政が設置する委員会・審議会へ参加しました。

期間	名称（主催団体）/参加の立場	テーマ・目的
平成 29 年 5 月 12 日 平成 30 年 2 月 6 日	しまのわ今治地方活性化推進協議会	しまのわを契機に起こった地域活動のネットワーク化を支援する協議会。事業の総括を意見交換。
平成 29 年 7 月 25 日 10 月 26 日	今治市廃棄物減量等推進審議会（今治市）	平成 30 年 4 月からの新しいごみ処理施設稼働を念頭に、ごみの減量化及び資源化を推進する施策検討。
平成 29 年 5 月 23 日 8 月 9 日 11 月 13 日	今治市ふるさと共創・共生ビジョン懇談会	今治市人口ビジョンおよび今治市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に係る意見集約、提言。
平成 30 年 2 月 7 日	中間支援組織ネットワーク会議（愛媛県）	多様な主体による協働環境整備を目指し、県内の中間支援組織や助成団体の情報共有のために開催。

(3) 講師派遣事業

依頼に基づき、講師を派遣しました。

日時	名称（主催団体）/参加の立場	テーマ・目的
平成 29 年 12 月 21 日	今治明德短期大学	知の拠点推進事業の一環で地域でのボランティア活動の紹介を行う授業を担当。
平成 30 年 3 月 15 日	今治明德短期大学	知の拠点推進事業の評価会議への参加。地域活動への学生参加の意義を検討。

※定款上、「その他の事業」は実施しなかった。

3. 会議に関する事項について

(1) 総会

①第16回通常総会

日時：平成29年4月17日（月）19：30～
会場：今治市民活動センター 大会議室
議題：2016年度事業報告・活動決算報告の件
役員任期満了につき改選の件
定款変更の件

(2) 理事会

①2017年度第1回理事会

日時：平成29年4月17日（月）19：00～
会場：今治市民活動センター 大会議室
議題：2017年度事業計画・活動予算の件
役員・有給役員の件
総会に付すべき事項の件

②2017年度第2回理事会

日時：平成29年7月24日（月）12：30～
会場：今治市民活動センター 大会議室
議題：今治市民活動センター運営管理計画策定の件
今治市民活動センター事業「出張相談会」の件
今治市民活動センター事業「NPO 現場体験ツアーvol.1」の件
NPO 啓発事業の件

③2017年度第3回理事会

日時：平成28年10月18日（水）12：30～
会場：今治市民活動センター 大会議室
議題：今治市民活動センター事業「NPO 現場体験ツアーvol.2・3」の件
今治市内の公共施設の評価の状況の件

④2017年度第4回理事会

日時：平成29年12月19日（火）19：00～
会場：今治市内 飲食店
議題：今治市内の公共施設の評価の状況の件

⑤2017年度第5回理事会

日時：平成30年2月13日（火）12：30～
会場：今治市民活動センター 中会議室1
議題：2018年度事業計画・活動予算
2019年度総会報告事項